



写真 2-2-14 日本八景宣伝車（昭和 2 年（1927））＊雲仙お山の情報館所蔵



写真 2-2-15 国立公園決定記念祝賀展覧会場（昭和 9 年（1934））＊雲仙お山の情報館所蔵



写真 2-2-16 雲仙観光ホテル（昭和期頃）＊雲仙お山の情報館所蔵



写真 2-2-17 雲仙観光ホテル宿泊室（昭和期頃）＊雲仙お山の情報館所蔵



写真 2-2-18 雲仙観光ホテル（昭和 10 年（1935）～昭和 20 年（1945）頃）
* 雲仙お山の情報館所蔵



写真 2-2-19 雲仙観光ホテル（令和 4 年（2022）11 月）

5. 現代（戦後）

雲仙岳は、戦後間もない昭和 27 年（1952）3 月 29 日に特別名勝に指定され、名勝としての価値を向上させるとともに、昭和 31 年（1956）に仁田峠循環自動車道路が全線開通、昭和 32 年（1957）には雲仙ロープウェイが開業するなど、引き続き観光地としての整備が進んでいった（写真 2-2-20）。

平成 2 年（1990）から平成 8 年（1996）まで続いた普賢岳の火山活動により溶岩円頂丘が形成され、平成 3 年（1991）には 6 月 3 日の大規模火砕流により、死者・行方不明 43 人、負傷者 9 名、被害建物 179 棟を出す大惨事が起きている。溶岩円頂丘は平成 7 年（1995）に成長が停止し、平成 8 年（1996）に「平成新山」と命名され、平成 16 年（2004）には天然記念物に指定された（写真 2-2-21）。なお、小規模な火山活動は現在も続いており、平成新山はいまだ立入が規制されている。その後、平成 21 年（2009）8 月、雲仙岳を含む島原半島が日本初の「世界ジオパーク」に認定されて現在に至る。



写真 2-2-20 雲仙ロープウェイ（令和 5 年（2023））



写真 2-2-21 平成新山（令和 4 年（2022））

表 2-2-3 温泉岳年表

年		主な出来事
西暦	年号	
—	—	縄文時代前期：諏訪池 A～D 遺跡 縄文時代晩期終末：原山支石墓群
701	大宝元年	行基が大乗院満明寺を開山するとともに、温泉神社を創祀。
713	和銅 6 年	風土記編纂の官命が出される。温泉岳に関する記載あり。 「峯湯泉在郷南 此湯泉之源出郡南高來峯西南之峯流」。『肥前国風土記』
778	宝亀 9 年	大乗院満明寺焼失
860	貞観 2 年	大乗院満明寺、従五位下から従五位上に格上げされる。『日本三代実録』
931	承平元年	大乗院満明寺焼失（以後170年間仮堂となる）。
1115	永久 5 年	僧定僧により大乗院満明寺再興。
1549	天文 8 年	フランシスコ・ザビエル、鹿児島に上陸。キリスト教伝来。
1571	元亀 2 年	僧兵の内乱（白雀の乱）により大乗院満明寺焼失 *長崎にポルトガル船が初めて入港
1580	天正 8 年	有馬晴信、洗礼を受ける
1584	天正12年	沖田畷の戦い。有馬晴信が島津氏の援軍を得て、島原半島へ侵攻した龍造寺隆信を撃退。
1587	天正15年	豊臣秀吉により、「バテレン追放令」が発令される。
1603	慶長 8 年	徳川家康が江戸幕府を開く。
1612	慶長17年	江戸幕府、直轄地にキリスト教禁止令。
1613	慶長18年	江戸幕府、全国にキリスト教禁止令。宣教師および主だったキリスト教徒が国外追放。
1616	元和 2 年	松倉重政、有馬晴信の旧領である肥前日野江へ移封される。 松倉重政、領民からの陳情を受け、諏訪池（上池・中池）を造営。
1619	元和 5 年	江戸幕府、キリスト教禁止令
1627	寛永 4 年	以後 5 年間にわたり、地獄においてキリシタンへの拷問が行われ、33人が殉教。
1637	寛永14年	大乗院満明寺、島原・天草一揆により焼失。
1638	寛永15年	高力忠房、浜松から島原へ移封される。
1640	寛永17年	高力忠房、温泉山満明寺一乗院を建立して復興。
1653	承応 2 年	加藤善左衛門が雲仙に共同浴場「延暦湯」を開く。
1663	寛文 3 年	普賢岳噴火（寛文 3 年の噴火）
1669	寛文 9 年	松平忠房、島原へ移封される。
1690	元禄 3 年	ドイツ人医師ケンペル来日。遺稿『日本誌』にて温泉岳をヨーロッパに紹介。
1693	元禄 6 年	松平忠房、山番人を置き、境内の出入口 4 か所に制札を立てる。
1712	正徳 2 年	松藤康隆が諏訪池に新池を掘削。
1775	安永 4 年	松平忠恕、温泉山保護のため、「諸殺生、竹林伐採、躑躅の盗掘・採取、放火」を禁止する制札を境内の出入口 4 か所に立てる。
1792	寛政 4 年	普賢岳噴火、死者約15,000名。（「島原大変肥後迷惑」）
1823	文政 6 年	ドイツ人医師シーボルト来日。 著書『日本』にて温泉岳を「UNZEN・TAKE」としてヨーロッパに紹介。
1827	文政10年	八木与一兵衛が温泉神社第一鳥居（片足鳥居）を建立。
1843	天保14年	賀来睦之（飛霞）、島原半島で薬草調査を行う。

表 2-2-3 温泉岳年表

年		主な出来事
西暦	年号	
1878	明治11年	外国人専用の「新湯」が開かれる。
1889	明治22年	『North China Daily News』に温泉岳が紹介され、外国人観光客が増加。
1898	明治31年	満明寺、火災で釈迦堂と護摩堂を焼失する。
1905	明治38年	ドイツ人医師ベルツ、県営保養温泉公園設置を提言。
1911	明治44年	「県営温泉公園」が開設（日本初）。
1913	大正2年	ゴルフグラウンド、テニスコートが開設。
1927	昭和2年	「日本新八景」山岳部門で第1位に選出。
1928	昭和3年	温泉岳が名勝、普賢岳紅葉樹林・地獄地帯シロドウダン群落・原生沼沼野植物群落・野岳イヌツゲ群落・池の原ミヤマキリシマ群落が天然記念物に指定される。
1934	昭和9年	温泉岳が日本初の国立公園に指定される。表記を「温泉岳」から「雲仙岳」に改める。
1935	昭和10年	雲仙観光ホテル開業。
1936	昭和11年	現在の仁田峠循環自動車道路供用開始。
1939	昭和14年	仁田峠展望台完成。
1945	昭和20年	終戦。ゴルフグラウンドおよび各ホテルが連合国軍総司令部（GHQ）に接收される。
1950	昭和25年	連合国軍総司令部（GHQ）による各施設の接收解除。
1952	昭和27年	温泉岳が特別名勝に指定される。
1956	昭和31年	7月：天草諸島と併せ「雲仙天草国立公園」となる。
		9月：仁田峠循環自動車道路全線開通。
1957	昭和32年	雲仙ロープウェイ完成
1991	平成3年	6月3日、普賢岳噴火による大規模火砕流発生。
1996	平成8年	火山活動の終息宣言。溶岩円頂部が「平成新山」を命名される。
2004	平成16年	平成新山、天然記念物（地質鉱物）に指定される。
2009	平成21年	島原半島が日本初の世界ジオパークに認定される。

6. 民話・伝承

島原半島には豊かな自然や山岳に由来した民話や伝承が語り継がれている。その中で特別名勝温泉岳に関わりがある民話・伝承を以下に取り上げる。

温泉岳にまつわる民話・伝承の中で最も著名なものとして「みそ五郎」が挙げられる。西彼半島（長崎市黒崎）、長崎半島（長崎市福田）、島原半島、および天草（上天草市）の広範囲に伝わるこの伝承は、味噌好きな巨人がその行いにより様々な地形をつくりだす物語である。主な伝承を表 2-2-4 にまとめた。なお、南島原市役所前にみそ五郎を模したモニュメント（写真 2-2-22）が設置されているほか、西有家町では毎年 11 月に、巨大なみそ五郎像が山車に乗せられて町内を練り歩く「みそ五郎まつり」という地域おこしの祭りも開催されており、地域に広く浸透していることがうかがえる。

温泉岳に関わる民話・伝承として、温泉岳が修験道の霊山であることに関連する伝承も残っており、代表的なものとして、雲仙市小浜町雲仙と山領の 2 か所に所在する「鬼石」が挙げられる。鬼石は、温泉岳の歴史を記した『温泉山縁起』に「此の山ノ本主、歡羅ハ四面ノ大鬼ナリ。行基菩薩二遭ヒ奉リ種々ノ問答アリ。又鬼アリ男鬼ノ名ハ空仙鬼、女鬼ノ名ハ難林王ナリ。此ノ鬼々ヲ加持スレバ即チ鬼石トナル」と書かれており、山嶺の鬼石は男鬼の空仙鬼、雲仙の鬼石は女鬼の難林王と伝えられている。雲仙の鬼石は、旧八万地獄に通じる遊歩道の雑木林の中に位置しており、高さ 7 m、底部周囲約 20m の大石である（写真 2-2-23）。かつては知名度が低かったものの、歩道整備とともに案内板が設置され、多くの人々に知られるようになった。なお、雲仙の鬼石が所在する雲仙温泉周辺は、更新世チバニアン期（約 70 万年前～15 万年前）に噴出した火成岩（デイサイト～流紋岩類）で構成されており、2 つの鬼石はこの時代の雲仙火山の溶岩類である。

また、白雲池の近くには、女人禁制の温泉山に入った母親の伝承が残る「七日廻りの石」が所在する。僧坊に預けた我が子に会いたい一心で温泉山に踏み入った母親は、この巨石まで来て休んでいたところ、一緒に連れてきた幼児がいなくなり、石の周りを七日探し回っているうちに息絶えたという。資料等の調査は今後必要であるが、霊山としての温泉岳での禁忌や慣習を伝える伝承の 1 つと言える。

これらの民話・伝承は、温泉岳の歴史と文化に深く根ざしており現在まで語り継がれてきた。加えて、温泉岳の多様な地形および自然現象と信仰などの人間活動が絡み合い、地域の歴史が形成されてきたことを示していると言えよう。

表 2-2-4 みそ五郎の主な伝承

伝 承	由 来	場 所
お手玉石	みそ五郎がお手玉をして遊んだ石	高岩山
八間石	みそ五郎が足を乗せたと伝わる巨石	高岩山
高岩山麓の赤土	みそ五郎が転んで怪我をした際に流れ出した血が地面に染み込んだ	高岩山
空池	みそ五郎が畑仕事の際に掘りすぎた穴に水が溜まって池になった	雲仙ゴルフ場そば
みそ五郎足跡石	宝原にあるみそ五郎の足跡がついた石	宝原
湯島（談合島）	みそ五郎が畑仕事の際に飛ばした土塊が島になった	上天草市



写真 2-2-22 みそ五郎モニュメント（南島原市役所）



写真 2-2-23 鬼石（雲仙）（令和5年（2023）11月）

7. 指定文化財

特別名勝温泉岳は、雲仙市・島原市・南島原市にまたがっており、指定範囲地内には国指定天然記念物「野岳イヌツグ群落」・「普賢岳紅葉樹林」・「平成新山」・「地獄地帯シロドウダン群落」・「原生沼沼野植物群落」・「池の原ミヤマキリシマ群落」が所在する。また、周辺地域には数多くの指定文化財が所在している（表 2-2-5・図 2-2-5）。

雲仙市域には、特別名勝の指定範囲地内に含まれる天然記念物のほか、諏訪池周辺には国指定史跡原山支石墓群が所在している。県や市の指定文化財では、キリシタン遺物、墓碑、城跡、寺跡などが各地に点在している。

南島原市域には、有馬氏代々の居城であった国指定史跡日野江城跡が所在する。県や市の指定文化財は市の中央周辺に多く分布しており、キリシタン墓碑が大半を占める点が特徴である。また、専念寺の榎の木や高岩神社のイヌマキなどの天然記念物も所在している。

島原市域には、平成新山の北側に位置する緩やかな台地に、市指定有形文化財である礫石原環状石組遺構が所在している。

温泉岳は、古代に修験道の霊山として栄えたのち、中世から近世にかけてはキリスト教の普及および、普及に伴う神社仏閣の破却、その後の禁教による弾圧の場となった。近現代に入ると一転して避暑地として世界に知られることとなり、多くの外国人で賑わい、日本有数の観光地となる。このように温泉岳が多様な歴史を持つことは、3市の指定文化財にも表れている。

雲仙市指定史跡阿弥陀寺跡および大泉寺跡は、満明寺の末寺と言われており、修験道との関わりを示す一例である。また、雲仙市指定史跡女人堂跡は、女人禁制である温泉岳に参拝できない女性のために御堂が建てられたと言われており、現在、跡地は畑地であるが、石垣と板碑が残存している（写真 2-2-24）。加えて、付近には雲仙市指定史跡キリシタン遺物摩崖仏が所在しており、修験道が栄えていた時代の様相を伝えている。また、南島原市指定有形文化財の茸山大菩薩宝篋印塔は 14 世紀初頭の所産とされており、領主有馬晴信による神社仏閣の破却を逃れた貴重な史跡と言えよう。

南島原市に位置する天然記念物である専念寺の榎の木は、島原・天草一揆の後に島原城主となった高力忠房が再興を祈念するため植えたという伝承を持つ。

国登録有形文化財の雲仙観光ホテルは昭和 10 年（1935）に竣工された外国人向けホテルであり、主要部の多くが建築当時の姿を留めている（写真 2-2-25）。

このように、特別名勝温泉岳周辺の指定文化財は、温泉岳の歴史的背景を現在に伝えていると言える。



写真 2-2-24 女人堂跡 * 島原市提供



写真 2-2-25 雲仙観光ホテル内観（令和 4 年（2022）11 月）

表 2-2-5 特別名勝温泉岳周辺の指定文化財

所在	番号	区分	種別	文化財の名称
雲仙市 島原市 南島原市	1	国指定	特別名勝	温泉岳
雲仙市 島原市	2	国指定	天然記念物	野岳いぬつげ群落
	3			普賢岳紅葉樹林
	4			平成新山
雲仙市	5	国指定	天然記念物	地獄地帯しろどうだん群落
	6			原生沼沼野植物群落
	7			池ノ原みやまきりしま群落
	8	県指定	史跡	小浜町茂無田のキリシタン墓碑
	9	市指定	史跡	弘法原遺跡
	10			釜蓋城跡
	11			阿弥陀寺跡
	12			女人堂跡
	13			犬丸古墳
	14			キリシタン遺物摩崖仏
	15			大泉寺跡
	16		有形文化財	橘中佐銅像
	17			キリシタン遺物ウルグス
	18			キリシタン遺物神父像
	19			キリシタン遺物弘法様
	20			釧雲泉の屏風絵
	21	天然記念物	天然記念物	烏兎神社境内のスギ
	22			タブワラのタブノキ
	23	国登録	有形文化財	雲仙観光ホテル
	島原市	5	市指定	有形文化財
南島原市	2	国指定	史跡	日野江城跡
	3			原山支石墓群（第2支石墓群、第3支石墓群）
	4	県指定	史跡	北有馬町谷川のキリシタン墓碑
	5			北有馬町西正寺のキリシタン墓碑
	6			西有家町里坊のキリシタン墓碑
	7			有家町尾上のキリシタン墓碑
	8			有家町力野のキリシタン墓碑
	9			有家町小川のキリシタン墓碑
	10			有家町中須川のキリシタン墓碑
	11	有形文化財	有馬の石橋群5橋	
	12	市指定	有形文化財	北有馬町内石橋群（5橋のうち1橋は欄外に所在）
	13			茸山大菩薩宝篋印塔
	14			桜馬場キリシタン墓碑群
	15			中山キリシタン墓碑群
	16			久保キリシタン墓碑
	17			平野キリシタン墓碑
	18			長田キリシタン墓碑
	19			堀之内キリシタン墓碑
	20			四面宮石造物群
	21			祥岳禎公禪師板碑
	22			慈恩寺キリシタン墓碑群
	23			おさんじょうキリシタン墓碑群
	24			見岳キリシタン墓碑群
	25			上見岳キリシタン墓碑群
	26			下観音寺五輪塔群
	27			千代万代の塔
	28			今福キリシタン墓碑
	29	天然記念物	天然記念物	専念寺の榎の木
	30			高岩神社イヌマキ

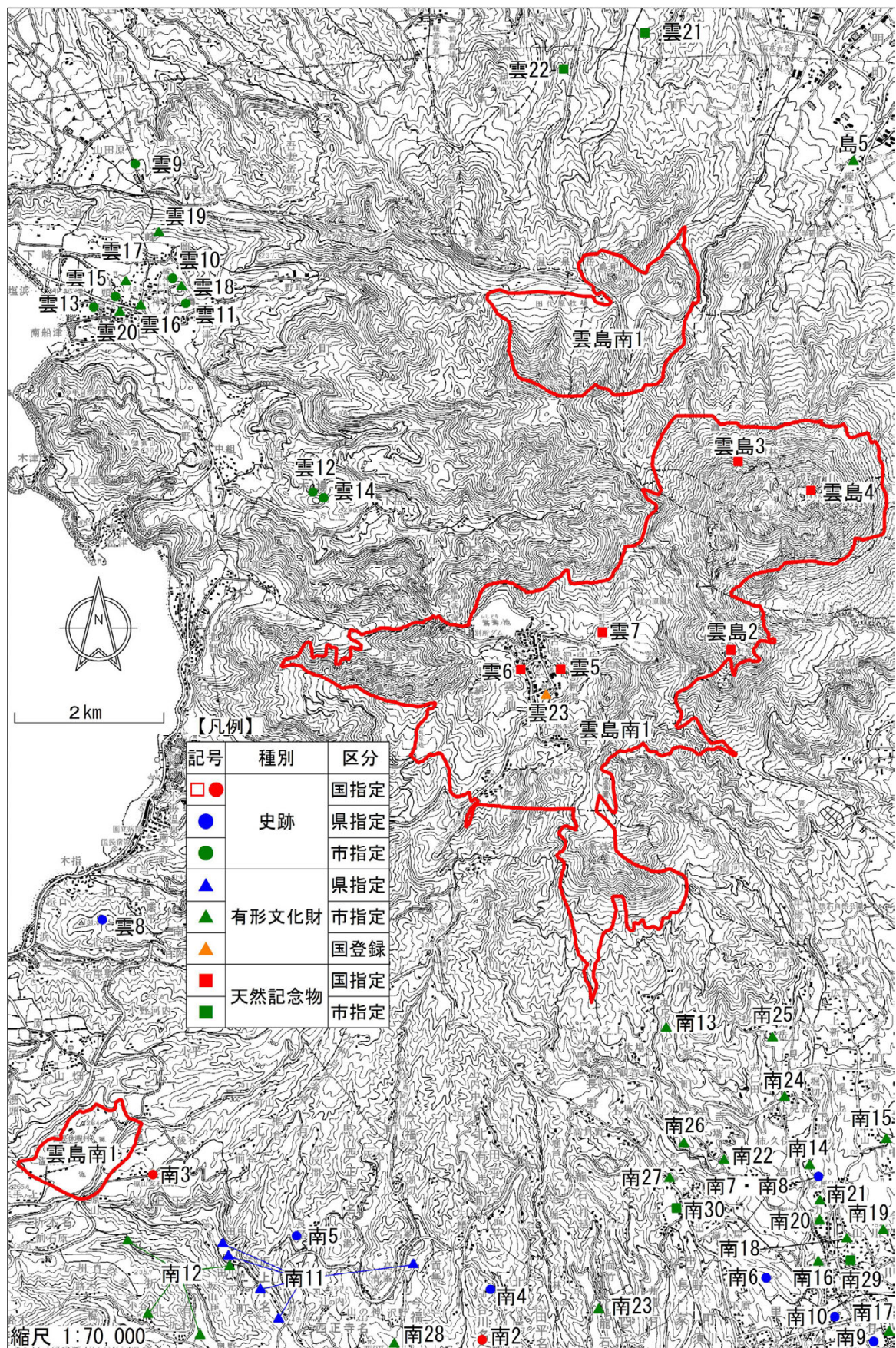


図 2-2-5 特別名勝温泉岳周辺指定文化財位置図